

## 令和2年度第1回岐阜県先端科学技術体験センター指定管理評価員会議

### 1 日時

令和2年8月27日 10:30～12:00

### 2 場所

岐阜県先端科学技術体験センター会議室

### 3 出席者（敬称略）

評価員 : 4名（高橋 信一、藤井 志保、水野 ゆかり、三宅 崇）

[開催日時点評価員数：4名]

指定管理者 : (株) トータルメディア開発研究所 2名

中電興業(株) 2名

館職員 4名（館長、副館長、利用促進課長、総務課長）

岐阜県（事務局）：文化伝承課 3名（管理調整監、教育文化係長、担当）

### 4 議題

- ・令和元年度の事業報告について
- ・令和2年度の事業計画の変更について

### 5 配布資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・指定管理者業務評価表、評価の考え方
- ・指定管理評価員会議設置要綱
- ・資料1「平成31年度 岐阜県先端科学技術体験センター 事業計画書」
- ・資料2「平成31年度 岐阜県先端科学技術体験センター 事業報告書」
- ・資料3「令和2年度 岐阜県先端科学技術体験センター 事業計画書」
- ・参考資料1「岐阜県先端科学技術体験センター管理運営業務仕様書」
- ・参考資料2「令和2年度・第1回岐阜県先端科学技術体験センター指定管理評価員会議 事業説明資料」

### 6 議事要旨

- ・資料に基づき令和元年度の事業及び令和2年度の事業計画の変更について説明

## 【質疑応答等】

### ・三宅評価員

様々な事業をされているが、実施した後にどのように評価し、次につなげているのか。

### ・指定管理者（副館長）

ワークショップ等では実施した際にアンケートをとっている。また、体験型の事業が主であるため、事業実施中に直接意見をいただくこともある。事業終了後には、職員会のそれらの意見も踏まえた報告書を提出し、それをもとに改善を行う。また、ワークショップ等、同内容のものを長期間やる場合には利用者の声を聴きながら日々改善している。

### ・高橋評価員

昨年度の事業運営に関しては、例年通り非常に適正に実施できていると思う。ただ、大きな課題として考えられるのは新型コロナウイルスの影響とそれに対する対応である。この施設は体験型を売りにしているので、オンラインの技術を使って、遠隔地であっても体験型事業を提供していける状況を作っていくことが重要だと思う。

## 【評価員による総評】

### ・高橋評価員

利用者の興味を引き出す事業の開発能力が優れていると思う。今後もこのような努力ある工夫を続けていていただきたい。

### ・藤井評価員

常に新しいことに次々と取り組み、利用者が求める事業展開ができるよう職員が意欲的に取り組まれている。ただ、多くの事業を展開しているからこそ、様々な分野に対する知識や実践力があり、事業全体をコーディネートできる人材が必要なのではないか。

### ・水野評価員

このような新型コロナウイルスの状況下であっても、やはり子ども達は家ではなくて外で何かを楽しみたいと思っている。オンラインで体験型事業を実施するのだとしたら、家庭にあるものを使ってできるような内容だと、子ども達も科学を身近に感じられ、家でも楽しめるのではないだろうか。

### ・三宅評価員

このような新型コロナウイルスの影響が続く状況下であっても、ただ元通りになる状況を待っているだけではなく、オンライン等の新たな方法を模索しているのはとても良いと思う。ただ、本施設の売りである体験事業と、見ることが主になりがちなのオンライン事業との両立は簡単ではないとも感じた。オンラインだからこ

そ、面と向かってやる事業とは異なる何か新たなものが発見できるのではないか。  
それが今年度の課題だと思う。

- ・令和2年度事業計画の変更については異議なし

## 7 評価結果

評価項目	平均点
管理基準の充足状況	4.0
設置目的の充足状況	4.0
公共性の確保の状況	3.8
経営状況	3.8
派生的効果	3.8